

あ い さ つ

養護学校の使命は、いつ、いかなる時も障害をもつ子どもたちにとって「やすらぎ」と「さすらい」の場を用意し、同時に「はばたき」の拠点として機能することにあります。

さりながら、子どもたちの障害は24時間を通して存続する障害であり、それに対応するには学校、家庭をも含めた24時間教育をもって臨むしかなく、学校、家庭のより緊密な連携と協力が必要となってまいります。もちろん、専門機関としての学校の果たすべき役割は極めて大きく、子どもの障害と共存しつつ、しかも子どもの成長、発達の促進と障害の軽減、克服に直接全力を尽さなければなりません。ところが、一人ひとりの子どものもつ発達と障害の実像はあまりにも千差万別であり、そのニーズに対応するには、必然的に多様な教育的アプローチが要求されることとなってまいります。

これがまた、大学の附属学校という特別な性格を有しながらも地域社会と連帯し、完全公開抽選制によって子どもたちを入学させておりますわが附属養護の教育的現実でもあります。そこで私どもは、空理空論を避け、毎日々々の具体的な教育実践を大切にし、それよりにじみ出た問題意識を集約して、分野ごとに興味と関心を有する者、それを得意とする者等が相集い、教官全員がいずれかの研究グループに属して課題別に研究を進めてまいりました。

他方、日常学校と相互補完的關係にありますPTAもその活動の一環として日頃家庭で問題としております事柄についてテーマ研究を掘り下げてまいりました。

この度はふつつかながらもそれらの成果の一端を 。教科の学習と生活を考える 。授業の中の「ものづくり」を考える 。からだづくりを考える 。コミュニケーションを考える 。パソコン教材を考える 。性指導を考える 。食生活を考える (PTA) の7つの分科会を通して公開し、研究協議の素材として提供することにいたしました。県内はもとより全国からお集まりの志を同じうする皆様と共に討議をし、養護学校教育のノー・ハウについて経験交流する生きた機会となればと期待いたしております。

“朋あり、遠方より来たる、また楽しからずや、”

限られた時間ではありますが、活発な討論と、ざっくばらんなご意見、ご感想、忌憚のないご叱正を歓迎いたします。

結果としてお互の明日からの教育実践にいささかなりとも裨益するところありとすれば、発表校としましてはこの上なき光栄と存じます。

平成元年 2 月 10 日

金沢大学教育学部附属養護学校長

大 塚 明 敏